

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
満期保有目的の債券・・・・・・償却原価法(定額法)を採用している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
貯蔵品・・・・・・移動平均法による原価法を採用している。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
定額法を採用している。
- (4) 退職給付引当金の計上基準
役職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上している。
- (5) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

未経過リース料期末残高相当額 (単位：円)

	1年以内	1年超	合計
未経過リース料期末残高相当額	665,290	1,477,300	2,142,590

- (6) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 会計方針の変更

該当なし。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産(投資有価証券)	59,888,666	20,649	4,020	59,905,295
基本財産(普通預金)	4,626,151	0	0	4,626,151
基本財産(定期預金)	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	74,514,817	20,649	4,020	74,531,446
特定資産				
退職給付引当資産	5,202,834	2,428	0	5,205,262
小 計	5,202,834	2,428	0	5,205,262
合 計	79,717,651	23,077	4,020	79,736,708

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
基本財産(投資有価証券)	59,905,295	(0)	(59,905,295)	
基本財産(普通預金)	4,626,151	(0)	(4,626,151)	
基本財産(定期預金)	10,000,000	(0)	(10,000,000)	
小 計	74,531,446	(0)	(74,531,446)	
特定資産				
退職給付引当預金	5,205,262	(0)	(5,205,262)	(5,205,262)
小 計	5,205,262	(0)	(5,205,262)	(5,205,262)
合 計	79,736,708	(0)	(79,736,708)	(5,205,262)

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。
(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計	当期末残高
什器備品	8,389,570	6,648,594	1,740,976
ソフトウェア	13,639,500	8,145,000	5,494,500
合 計	22,029,070	14,793,594	7,235,476

6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。
(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
第 8 9 回 川崎市公募公債	10,002,940	9,877,000	-125,940
平成29年度第1回 広島県公募公債	10,004,939	9,843,000	-161,939
第432回 10年大阪府公募公債	14,995,021	14,625,000	-370,021
第432回 10年大阪府公募公債	9,995,141	9,734,000	-261,141
第364回 10年利付国債	14,907,254	14,089,500	-817,754
合 計	59,905,295	58,168,500	-1,736,795